

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年6月1日現在

機関番号：25502

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22520684

研究課題名（和文） 中世山口文化の実像とその比較史的考察—モノと場の視角から—

研究課題名（英文） Comparison historical consideration of the real image of medieval-times Yamaguchi culture : About the visual angle of a thing and a place

研究代表者

伊藤 幸司 (ITO KOJI)

山口県立大学・国際文化学部・准教授

研究者番号：30364128

研究成果の概要（和文）：

中世山口文化の担い手であった周防大内氏にかかわる文化活動のうち、ハーバード大学蔵「源氏物語画帖」、吉川史料館蔵「湖亭春望図」、豊栄神社蔵「毛利元就像」という具体的な「モノ」について考察し、その歴史的背景をあきらかにした。また、周防大内氏と国際貿易港博多とのかかわりが、中世山口文化の展開にいかなる影響を与えていたのかという点についても素描した。

研究成果の概要（英文）：

The Harvard University warehouse "Tale of Genji in pictures (源氏物語画帖)", the Kikkawa archives warehouse "Koteisyunbozu (湖亭春望図)", and the Toyosaka shrine warehouse "Mori Motonari's portrait (毛利元就像)" were considered, and the historical background was clarified. And I clarified about the influence of Hakata to the culture of medieval Yamaguchi.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2011年度	900,000	270,000	1,170,000
2012年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総計	2,800,000	840,000	3,640,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・文化史

キーワード：中世山口文化・大内氏・禅宗・臨済宗幻住派・源氏物語画帖・遣明船・博多・肖像画・湖亭春望図・雪舟等楊・天与清啓

## 1. 研究開始当初の背景

従来、中世山口文化研究に関しては、1976年に刊行された米原正義「周防大内氏の文芸」(『戦国武士と文芸の研究』桜楓社)が最も網羅的に説明された唯一の専論であり、現在でもこの研究状況は基本的に変っていない。以後、中世山口文化に関する研究は、美術史の分野で画僧雪舟を、日本文学の分野

で連歌師宗祇をめぐる研究で部分的な深化があったものの、全体的には低調の観が否めない。今後、さらに中世山口文化の実態解明を総体的に深めていくためには、雪舟や宗祇などのような著名人をめぐる事柄以外の事象も素材として注目し、地道な研究実績の蓄積を積み重ねていくことこそ、遠回りではあるが最良の手段であると思われる。

## 2. 研究の目的

現在、山口市では「大内文化を活かした町造り」というキーワードが声高に叫ばれている。大内文化なる呼称は、山口地域のみで普及している中世山口文化を指す造語である。しかし、その掛け声とは裏腹に、山口における行政や一般市民の中世山口文化に対する理解は表層的で旧態依然としており、非常に曖昧なイメージばかりが先行しているのが実態である。

本研究は、上記の実情を鑑み、近年活発に発表されている大内氏研究の最新成果を取り入れつつ、新たな視野から中世山口文化の具体的な実像解明を促進し、その特質を提示することを目的とする。なお、本研究でいう中世山口文化とは、14世紀後半から16世紀前半にかけて繁栄した大名大内氏勢力のもとで生み出された文化を想定している。

具体的な素材としては、美術的なヴィジュアルな「モノ」に焦点を定め、それを文献史学の立場から歴史的背景や文化的特質を明示する。さらに、京都に比肩しうる文化的隆盛を誇った中世山口という「場」の文化的特質を、同時期の他地域の「場」のそれと比較検討することを通して、中世山口文化総体の特徴を具体的に位置付ける。本研究では、中世山口文化を「モノ」というミクロな視角、「場」というマクロな視角という両様から分析していくことになる。

## 3. 研究の方法

本研究では、中世山口文化にかかわる具体的な「モノ」を取り上げて、その歴史的背景をあきらかにする。具体的な考察対象は、ハーバード大学蔵「源氏物語画帖」、吉川史料館蔵「湖亭春望図」、豊栄神社蔵「毛利元就像」である。

さらに、中世山口文化という場の特徴を明示するために、国際貿易港博多との関係や、中世山口文化を特徴付ける標語「西の京やまぐち」が誕生する歴史的背景についても考察する。

こうしたテーマに共通する史料は、大内氏の外護した禅宗関係史料が重要な素材となってくる。

## 4. 研究成果

豊栄神社蔵「毛利元就像」は、像主は中世山口文化を創造した大内氏ではないものの、そこに書き込まれる賛文の内容は、非常に大内氏の存在を意識したものとなっている。毛利氏は、大内氏滅亡後、ポスト大内氏として博多を有する北部九州地域への進出を図った。しかし、北部九州地域ではライバルである豊後大友氏との抗争が繰り返され、その思惑はなかなか思い通りに進展しなかった。

最終的に、毛利氏は北部九州地域への進出を断念し、中国地域で覇権を確立することに集中していく。豊栄神社蔵「毛利元就像」は、こうした過程で生み出された肖像画であり、その賛文は西への眼差しを強めた大内氏の後継者としてふさわしい毛利氏像が語られている。この肖像画が寿像であることに鑑みれば、「毛利元就像」は毛利氏の領国支配の正統性を明示するものとして存在していた可能性がある。

ハーバード大学蔵「源氏物語画帖」は、発注者は大内氏家臣である陶弘詮であるが、その制作過程では大内氏の派遣する永正度遣明船の動向が少なからずかかわっていたことが判明した。具体的には、陶弘詮が息子である陶三郎を通じて、京都で「源氏物語画帖」の作成を依頼する。とりわけ、詞書きの執筆に際しては、三条西実隆の協力を得ている。じつは、この時、三条西実隆の子息鳳岡桂陽が大内氏の主導する永正度遣明船に乗り込んでいた。子息の動静が気になる実隆としては、陶三郎を通じて子息の情報を獲得することに喜びを感じていた。こうした背景があったからこそ、実隆は陶氏のために「源氏物語画帖」の作成依頼にもこころよく応じたといえる。中世都市山口では、陶氏をはじめとする大内氏家臣の間でも源氏物語を重要視する文化的熟成度があったといえる。

吉川史料館蔵「伝雪舟筆・湖亭春望図」は、入明直前の雪舟等楊が描いた水墨画に、応仁度遣明船正使として下向してきた天与清啓が周防山口で著賛したものとされてきた美術史上の基準作品である。この背景には、応仁度の遣明船正使であった天与清啓が「湖亭春望図」と接触することができたのは、入明以前しか考えられないとの大前提がある。なぜなら、従来、応仁度遣明船の帰路において、正使の乗船する一号船は、応仁・文明の乱の影響から大内氏の影響を受けない南海路から堺に帰着したとされてきたからである。しかし、近年発見された「相良武任書札巻」(宮内庁書陵部蔵)という新史料によると、応仁度遣明船の一号船は、大内氏の差配する三号船と行動をともにして長門国赤間関に帰着しており、南海路から堺へ帰着したのは細川氏の差配する二号船のみであったことが判明した。この新事実を考慮すると、天与清啓は入明後にも大内領国で「湖亭春望図」と接触した可能性は十分に考えられるのであり、従来のような入明前に限定することはできなくなったといえる。この結果、天与清啓の着賛時期は、入明帰国後の可能性を指摘することができる。この事実は、雪舟等楊の作品研究(作品の歴年など)にも少なからず影響を与えるものと推測する。同時に、中世山口文化を形成する重要な要素としての雪舟等楊研究にも影響を及ぼすものと考えられる。



〔豊栄神社蔵「毛利元就像」〕 図録より



〔吉川史料館蔵「湖亭春望図」〕 図録より

さらに、中世山口文化の形成に大きな影響を有した、中世日本最大の国際貿易港である博多と大内氏との具体的ななかかわりについて、とくに文化の面に注目しつつ考察した。その結果、大内氏の博多支配以前と以後とは、大内氏の所有する唐物の質に差があったことが判明した。すなわち、博多支配以前の大内氏は、「新渡の唐物」しか持ち合わせていなかったが、博多支配が確立する15世紀後半以降は、古物の唐物を大量に所有するようになっていたのである。

また、中世山口文化の舞台となった中世都市山口に関する概説書を出版した。この概説書は、山口に残る文化遺産を切り口としてやまぐちの歴史と文化を語っているが、とりわけ、「西の京やまぐち」という標語が生まれた背景を歴史的に探求している。

その他、山口市歴史民俗資料館で開催された洞春寺展（2011年）、福岡市博物館で開催された博多聖福寺展（2013年）に研究成果の一部を反映させることができた。

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計4件）

- ①伊藤幸司、大内氏と博多、市史研究ふくおか、査読なし、8、2013、3-17
- ②伊藤幸司、遣明船時代の日本禅林、ヒストリア、査読なし、235、2012、124-142
- ③伊藤幸司、大内教弘・政弘と東アジア、九州史学、査読あり、161、2011、1-28
- ④伊藤幸司、吉川史料館蔵「湖亭春望図」の著賛時期、信濃、査読なし、63-12、2011、21-32

〔学会発表〕（計6件）

- ①伊藤幸司、大内氏と博多、第8回福岡市史講演会「15・16世紀の博多と東アジア」、2012年10月6日、福岡市立中央市民センター3階ホール
- ②伊藤幸司、日本的遣明船和禅僧、「東亜文化意象之形塑——觀看・媒介・行動者」国際学術検討会、2012年9月7日、国立台湾大学（台湾）
- ③伊藤幸司、遣明船時代の日本禅林、2012年度大阪歴史学会大会中世史部会、2012年6月24日、大阪商業大学
- ④伊藤幸司、洞春寺開山嘯岳鼎虎禅師とその法系、「洞春寺—毛利元就の菩提寺に伝わる文化財—」展、2011年10月22日、山口市歴史民俗資料館
- ⑤伊藤幸司、山口における「西の京」、下松サテライトカレッジ、2011年6月25日、下松市市民交流拠点施設「ほしらんどくだまつ」

⑥伊藤幸司、大内文化ネットワーク、菜香亭  
歴史学習会「大内文化の遺産」講演会～山  
口開府 650 年記念、2010 年 7 月 4 日、山口  
市菜香亭

〔図書〕（計 2 件）

①伊藤幸司、他、山口県、山口県史通史編中  
世、2012、435-479・905-931

②伊藤幸司、他、昭和堂、大学的やまぐちガ  
イドー「歴史と文化」の新視点一、2011、270

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

伊藤 幸司 (ITO KOJI)

山口県立大学・国際文化学部・准教授

研究者番号：30364128

### (2) 研究分担者

( )

研究者番号：

### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：